

ロシア科学アカデミーの搜索チームは10月16日、今年2月にロシア南部チェリャビンスク州チェバルクリ湖に落下し湖底に沈んだ直径1メートル、重量約570キログラムの隕石の塊を引き揚げた。これだけ大きな隕石の回収は珍しい。2月15日、直径17mの小惑星が秒速15km(マッハ44)で大気圏に突入。エカテリンブルク時間9時20分26秒に高度約25kmで爆発、複数の破片に分裂し落下した。爆発時における隕石表面温度は6000℃。発生したエネルギーは、NASAの試算によれば広島型原爆の30倍以上にあたるという。

当然多くの被害が報告された。爆発時の衝撃波により4474棟の建物のドアが吹き飛んだり窓ガラスが割れるなどしたほか、女性が隕石に直接当たったことにより頸椎を骨折するなどの重傷者52名を含む1491名が負傷。さらに一時的に携帯電話が使用出来なくなったり、屋根が崩落したケースもあり、結果的にこれは人類初の隕石による大規模な人的被害をもたらした災害となった。車載カメラ搭載率世界一を誇るロシアの交通事情のおかげで、多くのアップロードされた映像を確認出来たが、物体は一時的に太陽より明るくなり、朝の地上に影を作り出すほどに輝き、視力障害に陥り病院に搬送される者もいた。あの不気味な赤白い横切る閃光を見て、  
聖書の ヨハネ黙示録16章 を思い出したのは私だけだろうか？。

「太陽は火で人々を焼くことを許された。また、1タラント(35kg)ほどの大きな雹が、人々の上に天から降って来た。人々は、この雹の災害のため、神に汚しごとを言った。その災害が非常に激しかったからである。」同8,21節。

実はこの度の災害が死者が出ず比較的に軽微で済んだのは、隕石が高高度で爆発したからである。しかし、もしこれが広島型原爆のように上空600mで爆発していたら？あるいは爆発せず地上に直撃していたら？おそらく人類の何分の一が死傷する惨事となっていたであろう。イエスによる「世の終わりの預言」、つまりキリストの再来時におけるカタストロフィについては、地震、飢饉、戦争などが有名だ。だが今回の一件で宇宙からの災害も再確認出来た。神は愛であるゆえに、いきなり人類を追い込むことはなさらない。が、警告はされる。キリストの再来の前に神を信じよと。

2013-11-7

